

香が友よ！
奇しき縁に曳かれてか
櫻花咲く丘に集ひ来て、
四つの春秋敷へつゝ
若き生命の追憶に
櫻花咲く丘を下るかな。

願みすれば懐かしき
若葉が蔭のパック裏、
木犀香ふ賦験の日、
さては佛母の遺迹に、
紀伊の山脈望みつゝ
若き友情の歡喜を
かたみにいみじく語りてし
四星霜の生活かな。

今此の美はしき想出を
綴らんがため一卷に
秘めて編みせば舊き日を
偲ぶよすがとせられかし。

あゝ吾が友よ！
奇しき縁に曳かれてか
櫻花咲く丘に集ひ来て、
四つの春秋敷へつゝ
若き生命の追憶に
櫻花咲く丘を下るかな。

商 神

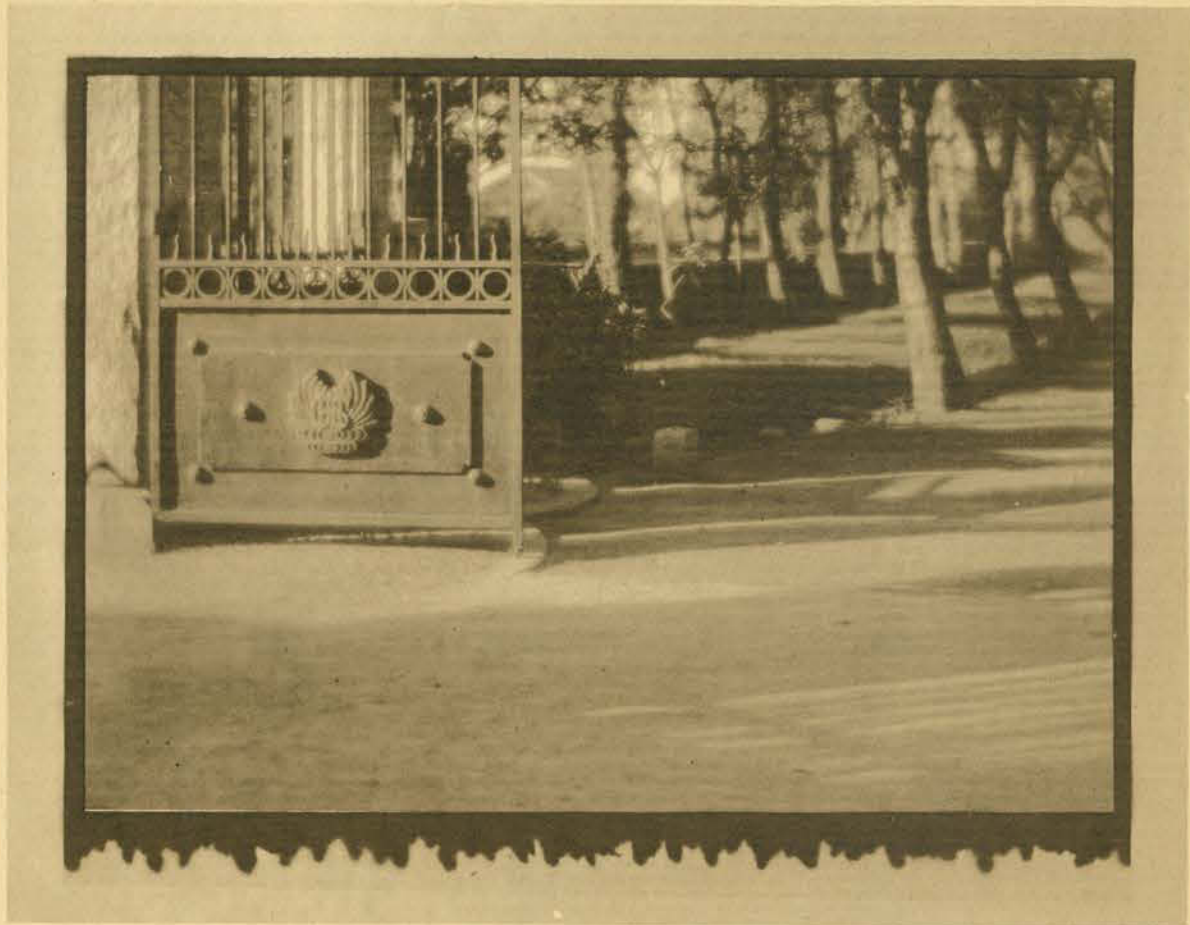
一、商神影なす翅をあけて
雲杖遙に東を指せば
雲しき果實は雲間を漏りて
秋津島根に落つてを見れば
所はこゝぞ菊水かをる
淡河原の近きはさとり
かく傳はりし天のさとしも
人はさくらで幾年か経ぬ

二、あゝ若はしき櫻の國の
皎くや此花難波津近く
帆船黒船出入しけき
神戸は我等の北浜なるぞ
鵜飼園南の時至る迄
いざや静に學び修めて
船國の榮を我等解らじ
我等の榮を神に祈らむ

大 神

一、平家榮華の夢の跡
楠氏遺烈の在る處
聲亮話よ者も無く
鬼哭の聲も絶わたりたれど
商戦の世の運まじく
港に鳴賦の響聞く

六、男兒一たび立たん九段
阿修羅の如くをたけびて
降吹く風に海風に
大崩し進みなむ
高懸場の只中に
高く凱歌を掲ぐるまで



次 目

編 輯 後 記	二二二	職 員 卒 業 生 名 簿	二二八	學 校 沿 革 略	二二七	卒 業 生	二二四	卒 業 式 謝 恩 會	二二三	學 部 ノ 友	二〇九	丘 人	一七〇	我 等 ノ 先 生	一五三	追 憶	I—VI	マ ダ ム 神 戸	一三〇	丘 ノ ホ ト ヲ	一一二	ア レ ー プ	一一三	セ ミ ナ ー ル	一〇四	丘 ノ 一 年 會	六七	學 友 會	三三	丘 ノ 一 日	二五	事 務 課	二〇	我 が 丘	七	田 崎 學 長 字	四	故 水 島 先 生	六
---------	-----	---------------	-----	-----------	-----	-------	-----	-------------	-----	---------	-----	-----	-----	-----------	-----	-----	------	-----------	-----	-----------	-----	---------	-----	-----------	-----	-----------	----	-------	----	---------	----	-------	----	-------	---	-----------	---	-----------	---

大存不立小規



不心

昭和辛未孟春

田崎三江題





田崎 慎治



故水島先生と御絶筆

妙：在處在何先右
 繼等海、外、口
 六月廿三日
 神也
 崎、長、殿
 六







本館

圖書館のほそり



中

庭